

TAKE
FREE

NIKKO WORKER's GUIDE vol.1

SUNNING



日光はあなたが輝ける舞台



SUNNING

日光が照らす、あなたが輝ける舞台

東京から約2時間。世界遺産「日光の社寺」をはじめとする荘厳な文化遺産や、多彩な自然美が凝縮された「日光国立公園」など、豊富な観光資源により、多くの観光客でにぎわう栃木県日光市。かつてはエジソン、ヘレン・ケラー、アインシュタイン、吉田茂など、錚々たる面々が訪れた歴史のある日光で、共創の「うず」が巻き起こっている。都会の喧騒を離れ、自然や歴史を浴びることで沸き立つインスピレーション。古くから観光客を迎え入れる中で成長してきた一流のビジネス。まだ影に身を潜め、光が当たることを待っている豊富な地域資源。都会の大勢の中に埋もれるのではない、あなた自身が輝ける舞台がここにあります。

“SUNNING”では、日光でビジネスをはじめするためのヒントとなるものを掲載していく。外から来るから見える日光がある。内にいるから見える日光もある。そんな両者の視点を絡み合わせて、新しいビジネスをはじめの人々を、日光はあたたかく迎え入れ、全力で応援する。ただの観光だけじゃない、新しい日光へようこそ。

目次

06	日光のリアルな暮らしを伝え、届ける。 Kitup Nikko 代表 木藤利栄子氏
10	【中禅寺湖エリア】日光の最盛期 秋を謳歌する紅葉ワーケーション
14	関係案内所を目指して。 mekke 日光郷土センター 館長 岩本淳氏
18	【鬼怒川エリア】雄大な渓谷美を望む 湯巡りワーケーション
22	若者が日光で働く。という選択肢を増やす。日光ぐるめ勇庵 店長 鷲頭勇弥氏
26	【奥日光エリア】白銀の世界を巡る 冬の日光ワーケーション
30	足尾から学び、「地域が持つ資源」を活かした未来を築く。 四季の彩りに風薫る足尾の宿 かじか 代表取締役支配人 小野崎一氏
34	スマートワークライフ #Nikko とは





ただの観光じゃないから、
出会える日光がある。

日光のリアルな暮らしを伝え、届ける。

木藤利栄子 Rieko Kito

日光市今市で生まれ育つ。大学卒業後、教員を経て、現在は地域の隠れた魅力を生かした着地型旅行を扱う Kitrip Nikko 代表。また、地域に眠る面白い「個性」を発掘し、まちづくりに取り組むモグローカルの共同代表も務める。(一社)日本ワーケーション協会公認ワーケーションコンシェルジュ

“モグローカル”というライフスタイル

日光市今市で生まれ育つ。大学では教育を学び、卒業後はそのまま教員に。教師として勤める傍ら、学生時代から興味があった地域づくりに取り組もうと、幼馴染と共にモグローカルを立ち上げる。モグローカルでは、日光をより深く知って楽しむ、そして届けるため、市内各地でマルシェや農園イベント、交流会、まちあるきツアーなど、幅広い活動に取り組む。現在は、開業のサポートや、共同代表の江田さんを中心にシェアスペース△もぐらベースも運営。日光で挑戦する人を増やし、よりみんなが楽しむ日光を目指す。木藤さんにとって、モグローカルはライフスタイル。やりたいからやる。自分自身も楽しむ活動であることは、当時から今も変わらない。

日光のもっとディープな世界を体験してもらうために

日光でチャレンジしている方や、情熱を持って活動している方と出会い、そうした魅力を外の人に体験してもらうため、日光の隠れた魅力を生かした着地型旅行を扱う Kitrip Nikko を開業。場所にとられない働き方、ワーケーションをきっかけに、日光市外の人が仕事をしながら日光を楽しむ下地づくりに取り組んでいる。コーディネートとして自分にしかできない、自分が愛するオリジナルの日光体験を企画し、提供している。



人々が集い、語り合う、△(さんかく)モグラベースにて

モグローカル



ライフスタイル



Kitrip Nikko

栃木県日光市には、個性豊かな5つのエリアがあります。Kitrip Nikkoは、各エリアで土着に生きる人たちのリアルな暮らしを体験できる「旅」をお届けしています。土着に生きる人たちとの出会いや交流は、新しい自分を見つける「きっかけ」にもなります。ぜひ観光だけじゃない日光にお越しください。



影に隠れたディープな土着文化

目立つ世界遺産だけじゃない。それを支えてきた周辺地域に散らばる一見地味な土着文化にこそ、ぬくもりが詰まっています。



大人も子ども一緒に学ぶ大切さ

人々が繋いできた地域の文化には、学びどころがたくさん。子どもの発見に大人が驚くことも。学びに年齢の境目はありません。



社会課題はあなたの隣に

ぬくもりを共有すると見えてくる、楽しい体験の裏に地域が抱える課題。それは日光だけの問題ではないことも多いんです。

今冬おすすめの trip プラン



今冬開催予定 日光天然氷造り見学
～至高の氷造りから見える食文化と循環～

全国に5箇所しかない天然氷の生産現場。実はそのうちの3箇所は日光にあります。ほぼ全てを人力で行う丁寧な天然氷造りが守り継ぐ自然と文化を観に行きましょう！



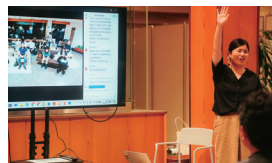
ご予約は HP から

英語対応可

ワークショップ先として選ばれるには
私自身も旅行が大好きで、あちこちにワークショップに行きますが、他地域と比較しても、まだ日光にはワークショップ先として選ばれる環境は十分ではないと感じます。日光といえどももちろん観光。パケーションとして楽しむコンテンツには十分に恵まれています。最近ではワークスペースもかなり充実してきました。では何が足りないのか。私自身がワークショップ先で求めているのは、人との出会いです。面白い取り組みをやっている人から話を聞いてみたいとか、その土地で新しい何かを得たいんだと思います。もちろん日光には面白い人がたくさんいて、面白い取り組みもたくさんあるのですが、まだまだそこに辿り着くきっかけが少ないのが現状です。

日光の内と外が交わることで起こる化学反応

そんな外からきた人が面白い日光の人と繋がるきっかけになる場所として、うず・うずカイギというイベントを定期開催しています。うず・うずカイギは日光で新しいコト・ビジネスを生む土台となる場です。日光のいいものと、外部からの技術や知識がうまくマッチングして、今までにない新しい日光が生まれる。その変化や進化が何よりも楽しいです。日光で何かしてみたい、日光とコラボレーションしてみたい方は、ぜひうず・うずカイギにご参加ください。持ち込み企画も歓迎です。



ファシリテーターを務める木藤さん



イベント“うず・うず Days”にて



イベント“うず・うずカイギ”の様子（詳細はP35）

名建築でテレワーク

湖畔で絶景を眺めるワーケーション



イタリア大使館別荘記念公園

建築家アントニン・レーモンド設計の湖畔に佇む名建築。内外装は地元の素材に拘った杉皮張りで、「市松模様」などの日本ならではの伝統柄を表現。洗練された美しい空間でのワーケーションは新しいアイデアが溢れ出す、クリエイティブな仕事に最適です。



英国大使館別荘記念公園

湖面に向かって開く贅沢なファサードが特徴的で、2階からの眺望はまさに絶景。余計な装飾のないシンプルな空間に、2階の広縁からは外交官アーネスト・サトウが愛した「絵に描いたような風景」を満喫できます。背筋がピンと伸びるような緊張感のある空間で働いてみませんか？



中禅寺湖畔ポートハウス

国際避暑地として栄えた中禅寺湖畔に、昭和20年代の水辺リゾート施設として建設された建物を復元した施設。天気が良ければ外のテラス席でも仕事ができます。湖畔の爽やかな風を感じながら、美しい中禅寺湖の風景の中で、贅沢なアウトドアワークを堪能できる休憩施設です。

各施設、有料にてワーケーション利用も可能です。(電源・Wi-Fiあり)
希望される方は、日光自然博物館にお電話でご予約をお願いいたします。(TEL: 0288-55-0880)



中禅寺湖

日光の最盛期

秋を謳歌する紅葉ワーケーション

日光といえば、関東屈指の紅葉スポット。紅葉のトンネル・いろは坂をくぐり抜け、天空の湖・中禅寺湖でのんびりと贅沢な仕事時間。

おすすめのワーケーションホテル

中禅寺金谷ホテル

紅葉に染まる木々に囲まれて、小鳥のさえずりを聞きながら「リゾートワーケーション」を楽しみませんか？源泉かけ流しの温泉に、自然を楽しめるアクティビティ、ロングスティでも仕事とプライベートのメリハリをつける事が可能です。中禅寺湖がすぐ目の前。日光の秋をのんびりと贅沢に謳歌する。そんな夢のようなワーケーション体験がここにあります。



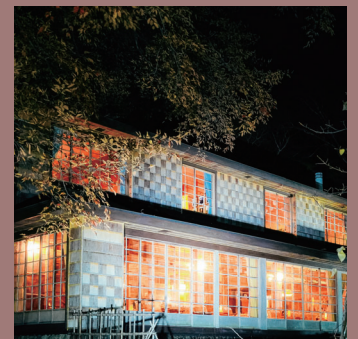
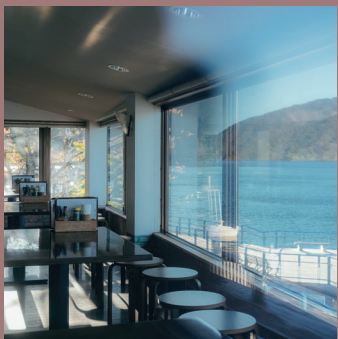
紅葉に包まれるリゾートホテル



開放的なデッキで仕事



紅葉に囲まれた露天風呂



家族で日光移住。mekke 日光郷土センターを運営。

千葉から日光に家族で移住し、mekke 日光郷土センターの館長を務める。千葉での暮らしは毎日電車通勤で、ビルの18階で仕事をする日々。そんな中、日光郷土センターの指定管理者の募集を耳にして、興味があったコミュニティ事業に挑戦すべく、会社のプロジェクトとして応募。無事選定された現在は、名称を「mekke 日光郷土センター」として多くの人に日光の魅力を「めつけ」てもらうことを目指して、伝統工芸の体験やイベント運営、おみやげの開発・販売、コワーキングスペース運営などに取り組む。またパパとして大自然を楽しみながら、子育てにも奮闘中。

移住してからやっと「めつけ」た日光

移住する前には、修学旅行で訪れた有名な観光地くらいの印象しか正直持っていないでした。しかし、実際に暮らして感じる日光はとにかく面白いです。何百年と歴史のあるものがすぐ身近にあり、歩けばそこらじゅうで歴史に触れる機会がある。そして、それを誇りに思い、伝えようと頑張る方々がたくさんいる。ベッドタウンで生まれ育った自分には、信じられない体験の連続です。日光の「ゆば」も日光山で厳しい修行を行う修験者の食事から今に伝わっています。知れば知るほど深みを増すのが日光の魅力です。

家族で千葉から日光に移住。

日光をより多くの人に楽しんでもらう関係案内所を目指して

岩本淳 Jun Iwamoto

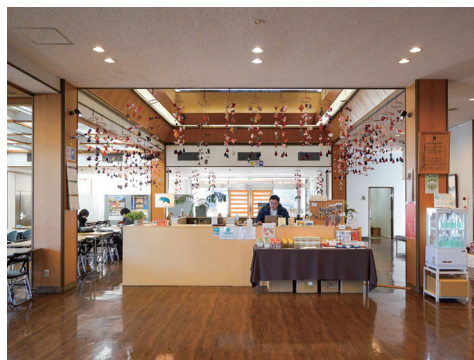
八千代エンジニアリング株式会社所属。地域に根づいたコミュニティづくりに挑戦すべく、家族で千葉から日光へ移住。mekke 日光郷土センターで館長を務め、伝統工芸の体験やイベント運営、お土産の開発・販売など、さまざまな視点から、日光の魅力を伝えている。パパとして日光の大自然を楽しみながら子育てにも奮闘中。



mekke で運営するキッチンカー



日光彫体験



mekke エントランス・窓口

日光の魅力をもっと届きたい

そんな日光の魅力を知った上で、改めて周りをみると、やはりまだその魅力が十分に伝わっていないと感じます。mekkeは4年目を迎え、「感じる、つながる、巡る」をテーマにしましたが、これからは、「つながる」をより強化していきたいと思っています。最近3カ月に1回程度でマルシェを開催し、イベントとして点での「つながる」は実現できつつありますが、それらを日常的に、線や面へと成長させていきたいと思っています。mekkeの特徴として「観光案内所（日光市観光協会が運営）と関係案内所（mekke）の両方が一つ屋根の下にある」ことを目指しており、その関係性をどうデザインしていくか、試行錯誤を続けています。

大自然がすぐ身近にある贅沢

千葉で暮らしていた時には想像できなかった暮らしが日光にはあります。小百川桜公園は特にお気に入りスポットで、夏になるとよく家族で川遊びに行きます。浅瀬は川の流れが緩やかで、子供と半日、あみをもって魚取りをしたり。こんな環境が車ですぐのところにあるぜいたくな暮らしです。こうした子育てに必要な情報収集にも最初は苦戦しましたが、「日光パパ会」を結成して、子育て情報をシェアできる場も作っています。興味がある方はSNS等を通じて岩本までご連絡ください。



mekke 日光郷土センター

mekkeは、「感じる・つながる・巡る」をテーマとした、日光の魅力「発見」拠点です。観光案内所での情報収集、日光ならではの文化体験「日光彫体験」、観光の合間にも利用できるコワーキングスペース、日光をより便利に楽しむ電動アシスト自転車のレンタルなど、あなただけの日光を見つける、みつかる場所です。



mekke-nikko.com



オープンスペース

利用時間	一般	学生
1時間	400円	300円
1日	1,200円	800円
1ヶ月	12,000円	8,000円
回数券(6回分)	6,000円	4,000円

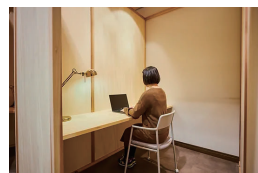
コワーキングスペースの利用料金



カウンター席



半個室ブース 4名用 1席



半個室ブース 1名用 3席



関係案内所掲示板



うず・うずカイギでプレゼンする岩本さん



鬼怒川温泉 ホテルサンシャイン鬼怒川

新宿から鬼怒川温泉まで約2時間。春夏秋冬で移りゆく自然豊かな渓谷美を眺めながら、温泉でじっくりと身体を癒す。がっつり仕事と言うよりは、自然や温泉を楽しむリフレッシュが多めな非日常を味わうワーケーションにおすすめです。



四季折々の景観を望む大浴場と露天風呂。仕事の合間にサウナでととのって、日々の疲れをリセットしましょう。



鬼怒川を代表する絶景スポットのひとつ「鬼怒橋岩大吊橋」がすぐ目の前。気分転換に浴衣でお散歩して、思う存分リフレッシュしましょう。



鬼怒川温泉

江戸時代に発見された由緒正しき温泉郷。雄大な自然が織りなす渓谷美を、すぐ間近で堪能しながら、極上の温泉で疲れを癒す。日常を離れ、仕事をしながらリフレッシュもできる、ワーケーションに最適な環境です。

雄大な渓谷美を望む

湯巡りワーケーション

おすすめのワークスポット



Lune Bleue

電源・Wi-Fiあり。鬼怒川温泉駅から徒歩で約10分。2023年1月にオープンしたばかりの複合施設「遊ingPLAZA」内にあるノマドワーカー向けのカフェ。自宅や学校、職場でもない、居心地の良いサードプレイスです。



足湯カフェ「espo」

Wi-Fiあり。ホテルサンシャイン鬼怒川内にある、足湯カフェ。足湯に浸かりながら鬼怒橋岩大吊橋を一望でき、鬼怒川温泉の新名物“珈琲モンブラン”などのスイーツやドリンクを楽しめます。(長時間の作業は周りのお客様に配慮ください)



金谷菓子本舗

電源・Wi-Fiあり。程よく空間が仕切られた店内は仕事にもぴったり。ほほ肉をとろとろになるまで煮込んだビーフシチューや那須高原豚ホットドッグなど、旅のあい間にほっと一息つきのにおすすめです。



水辺のカフェテラス

Wi-Fiあり。鬼怒川温泉駅から徒歩約5分の憩いの空間。足元に広がる池と心地よい音楽、食事や飲み物のメニューも豊富です。まるで屋外のテラスかのような空間で、のんびりとした癒しのひとときが過ごせます。





地元の食材を活かした“ぐるめ”から

“若者が日光で働く”という選択肢を増やす。

鷺頭勇弥 Yuya Washizu

日光市今市で生まれ育つ。日光のメインストリートに店を構える“日光ぐるめ勇庵”の店長。地元の食材を活かして、日光の食べ歩き文化の拡大を目指す。現在2店舗目を準備中。今後は、飲食業だけでなく、若者が日光で働きやすい環境づくりに取り組みでいきたいと語る。趣味は旅行。

生まれ育った日光で飲食業を展開

鷺頭さんは、日光市今市で生まれ育ち、高校では建築、大学では経済を学ぶ。大学2年生の時に、自前のキッチンカーでビジネスの世界へ飛び込んだ。きっかけは、地元奥日光産のいちご「なつおとめ」。その希少性と味の魅力に惹かれ、より多くの人に味わってもらおうと、いちごのスイーツを販売した。大学卒業後は、日光でホテルスタッフとして勤務するが、自分でできる小さなことからもう一度飲食業にチャレンジしようと決意し、2020年、退職して一ヶ月で食べ歩きグルメの店「日光ぐるめ勇庵」を開業。コロナ禍のテイクアウト需要を逆手に取り、売り上げを伸ばす。歩道の拡張整備が進み、歩きやすい環境が整ってきた日光を、より楽しく歩けるまちにしていきたいと語る。

若者が選べる選択肢をもっと広げたい

自身が学生時代、いざ日光での就職を考えた時に、選べる選択肢が少ないことを実感したという。観光業が目立つ日光では、土日や連休が仕事中心のライフスタイルの方も多い。家族や友人と過ごす時間がどうしても限られてくる。そうしたライフスタイルの制約、選択肢の少なさも若者が日光から離れていってしまう原因の一つだと考える。そうした課題はあるが、都内からのアクセスが良い日光は、テレワークなどの現代の働き方を組み合わせることで、まだまだ若者が選べる選択肢が広がっていくのではないかと考える。



店長を務める鷺頭さん



学生時代に販売した日光産完熟いちごのけずりおとめ



奥日光産のいちご「なつおとめ」

ゆっくり滞在してこそ味わえる日光の魅力

そんな働き方に課題を抱えつつも、大自然がすぐ身近にあるのが日光の魅力の一つだ。化け地蔵で有名な「憾満ヶ淵」という小さな渓谷には、透き通った清流に癒しを求めて度々通っている。世界遺産「日光の社寺」がある山内は、早朝の人がまだ少ない時間帯、木々の隙間から差し込む朝日を浴びるのがなんとも贅沢な時間なんだとか。さらに鬼怒川まで足を運べば、足湯スポットがいくつもあり、お気に入りの「鬼怒子の湯」では鬼怒川の絶景を一望しながら、足湯で疲れを癒すことができる。都内からのアクセスもよく、観光資源が豊富な日光。日光に来るなら日帰りではなく、ぜひ宿泊して、ゆっくりのんびり過ごしていいと語る。

“若者が楽しく働ける日光”を目指して

観光客を迎え入れる環境ばかり整えても、若者が楽しく働きながら暮らす環境はまだ十分ではない。驚頭さんは、現在2店舗目を準備中。2店舗目では、若者が働きやすい労働環境を整え、若者が楽しく働ける店を目指す。給与も休みもしっかり取れて、自分のやりたいことに時間を割いたり、副業や多様な働き方も応援する。そのためにまずは、自分が思いっきり日光を楽しんで暮らすことを日々実践し、様々な場で活動している。



日光の新しいお土産づくりに取り組む



憾満ヶ淵





中禅寺湖の夕焼け



中禅寺湖



戦場ヶ原の雪原



湯ノ湖



スノーシュー体験



温泉小屋の風景



白銀の中禅寺湖

奥日光

冬の日光は別世界

白銀の世界を巡るワーケーション

一般的には閑散期と呼ばれる、日光の冬。ところが、一度訪れば、その圧倒的な雪景色の虜になるはず。大自然を贅沢に独り占めできる最高のシーズンかもしれない。



浅草駅 東武日光線 東武日光駅 東武バス 中禅寺湖
特急約 110 分 約 45 分

おすすめのワーケーションホテル

休暇村日光湯元

奥日光の森と湖と山々に囲まれて静かにたたずむ休暇村日光湯元。散策やハイキングなど奥日光の豊かな自然を楽しみながら、仕事に打ち込む時間。奈良時代に開湯したといわれる日光湯元温泉の源泉から引いた良質な温泉に浸かって、ゆっくり身体を癒してください。



静かな湖畔の森に包まれる高原リゾート



日本に3つしかない国民保養温泉地第一号指定温泉地



ライブラリーコーナー

Anytime, Anywhere, Anyone can make fun in Nikko.



日光市霧降高原キスゲ平園地

日本の近代化の礎となった足尾から学び、

「地域が持つ資源」を活かした未来を築く。

小野崎 一 Hajime Onozaki

日光市足尾町生まれ。四季の彩りに風薫る足尾の宿 かじか 代表取締役支配人。新関東観光株式会社代表取締役も務める。家業の旅行業のノウハウも活かし、足尾銅山を中心とした地域の歴史を体験できるプログラムの提供や、「足尾産はちみつ」などの地域資源を活かした商品開発にも取り組む。

地元足尾町にUターン、観光から地域活性化を目指す。

日光市足尾町に生まれ育ち、都内の大学で学んだ後、外資系の大手メーカーに勤務。親の高齢化をきっかけに、28歳で足尾町に戻る。地元に戻り自己について見つめ直す中、自身のルーツに家業の旅行業を通じた「地域活性化」の視点があることに気づく。現在は曾祖父からの写真館を引き継ぎ、小野崎写真館の四代目として経営に携わり、四季の彩りに風薫る足尾の宿 かじか（旧国民宿舎かじか荘）を指定管理者として運営。旅行業のノウハウも活かし、旅館を拠点に、足尾地域の産業遺産見学や、環境学習をテーマにしたガイドやツアーを実施。足尾地域ならではの地域資源を活かした地域再生を目指す。

足尾が持つ最大の地域資源は「教科書にはない足尾史」

足尾地域は人口減少が進み、働き手が不足しています。施設の収容人数に余裕があっても、人手が足りなければ受け入れられません。こうした問題は全国的な問題であり、我々に残された道は「地域が持つ資源」を活かした活性化です。足尾といえば「公害問題」といったネガティブなイメージが先行しがちですが、その公害問題を乗り越えた「公害対策」の歴史や、日本産業の近代化を牽引した歴史があります。教科書にはない足尾史に耳をかたむけることは、足尾を未来へ導いてくれる大切な価値があり、伝え学ぶ意義があると考えています。



禿山と呼ばれた足尾銅山周辺の山々



非加熱足尾産はちみつ



荒廃して山の土壌がむき出しになっている足尾

足尾をルーツに持つ技術が世界で活躍

今、足尾をルーツに持つ技術や企業が全世界で活躍しています。掘削や伐採技術はもちろん、物資の運搬、エネルギー開発。足尾という土地だからこそ知恵を振り絞って生まれた技術が山のようにあります。明治時代、世界を知った日本の生き残りをかけて、世界に追いつくため、富国強兵を実現するために殖産興業を推進する中、必死にベンチャー魂を燃やして、日本の産業を牽引したのが足尾でした。日本で初めて電車が走り、日本で初めて無公害精錬技術を完成させたのも足尾でした。

この歴史の上に立つ足尾から学び、新しいビジネスへ

温泉や自然、地元の食材を使った料理はもちろんですが、足尾での滞在の最大の魅力は、足尾の歴史に学ぶことです。長い年月をかけて人々は植樹を行い、その木々が根をはり、育ち、山は緑を取り戻しました。その際に植えられたのが、煙害に強いアカシアなどの外来種です。そのおかげで今の場所だからこそ取れる「恵みのハチミツ」が生まれています。鉱山の坑道跡を活用したワインの熟成も然り。そんな足尾の歴史のバトンを引き継いで、新しい価値に変えていくこと、歴史を次世代に紡いでいくことが今の私たちにできることなのではないかと小野崎さんは語ります。

四季の彩りに風薫る足尾の宿

かじか



足尾の歴史に学ぶ、スタディケーション

四季の彩りに風薫る足尾の宿 かじかは、全室 Wi-Fi 完備。企業・団体でのワーケーションにも最適です。明治から昭和初期にかけての貴重な写真やガイドツアーから、足尾の歴史を学ぶスタディケーションができます。まずは足尾産はちみつ入りソフトクリームを味わってみることから、足尾の歴史を学んでみませんか？



大自然を望む温泉で心身を癒す

銀山平公園に湧き出た源泉「庚申の湯」。野趣豊かな露天風呂は、つかると肌がツルツルになる「美肌の湯」です。内風呂、露天風呂、低温サウナあり。



※料理はイメージです。

地場産にこだわった懐石料理

「ヤシオマス」や「HIMITSU 豚」など、地場産にこだわったコース料理。特に寒い時期には、名産の頂鱈と、こだわり抜いた出汁自慢の「鍋」が人気です。



日本近代化を支えた足尾の歴史

足尾は近代化によって地域は栄えたものの日本で最初の公害問題も起きました。そんな栄枯盛衰も含めた地域の歴史を学び、ビジネスを見つめ直せます。



四季の彩りに風薫る足尾の宿 かじか

所在地：〒321-1511 栃木県日光市足尾町5 4 8 8

電話番号：0288-93-3420



足尾産はちみつソフトクリーム



平成 17 年（2005）緑を取り戻した足尾

What is スマートライフ #Nikko?

略してスマ日^{にち}

首都圏から約2時間、世界遺産「日光の社寺」を有する栃木県日光市。四季折々の風景、きれいな空気や水、歴史ある文化の中で、共創による新しいビジネスを推進するのがスマートワークライフ #Nikko（略してスマ日^{にち}）です。テレワークやワーケーションといった新しい働き方をきっかけに、日光の内と外をかき混ぜて、自由な発想でチャレンジする人々をサポートし、日光の新しい魅力創出に取り組みと始まった官民共創の場です。

スマ日は、いつでも、どこでも、誰でも、日光を楽しめるをコンセプトに、観光だけじゃない日光の魅力を発掘し、官民の立場や地域を越え、繋がり合う場を提供しています。都会のように、大勢の中で埋もれるのではなく、あなた自身が主体となって挑戦できる場がここにはあります。

ワークもライフもスマートに。新しい働き方、新しい働く場所、あなたにとって魅力的な日光はどこですか？

さあ、一緒に新しい日光を見つけましょう！



smartwl-nikko.jp



@smartwl.nikko



スマートワークライフ
#Nikko



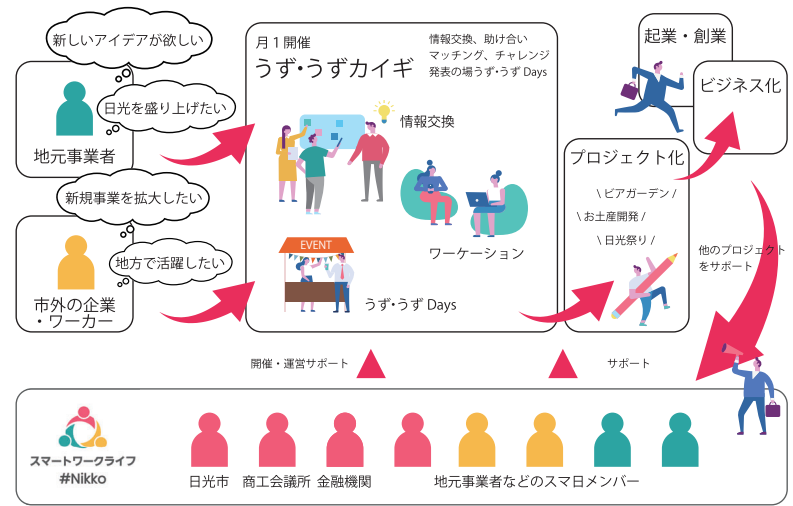
うず・うずカイギ in Nikko

日光で「新しい何か」を始めたい多様な立場のプレイヤーがごちゃまぜになって語り合い、繋がる場。悩みや願いを気軽に共有できる、立場・地域を超えたゆるやかな関係性を作り、次に踏み出すきっかけ＝うず^{うず}にしています。



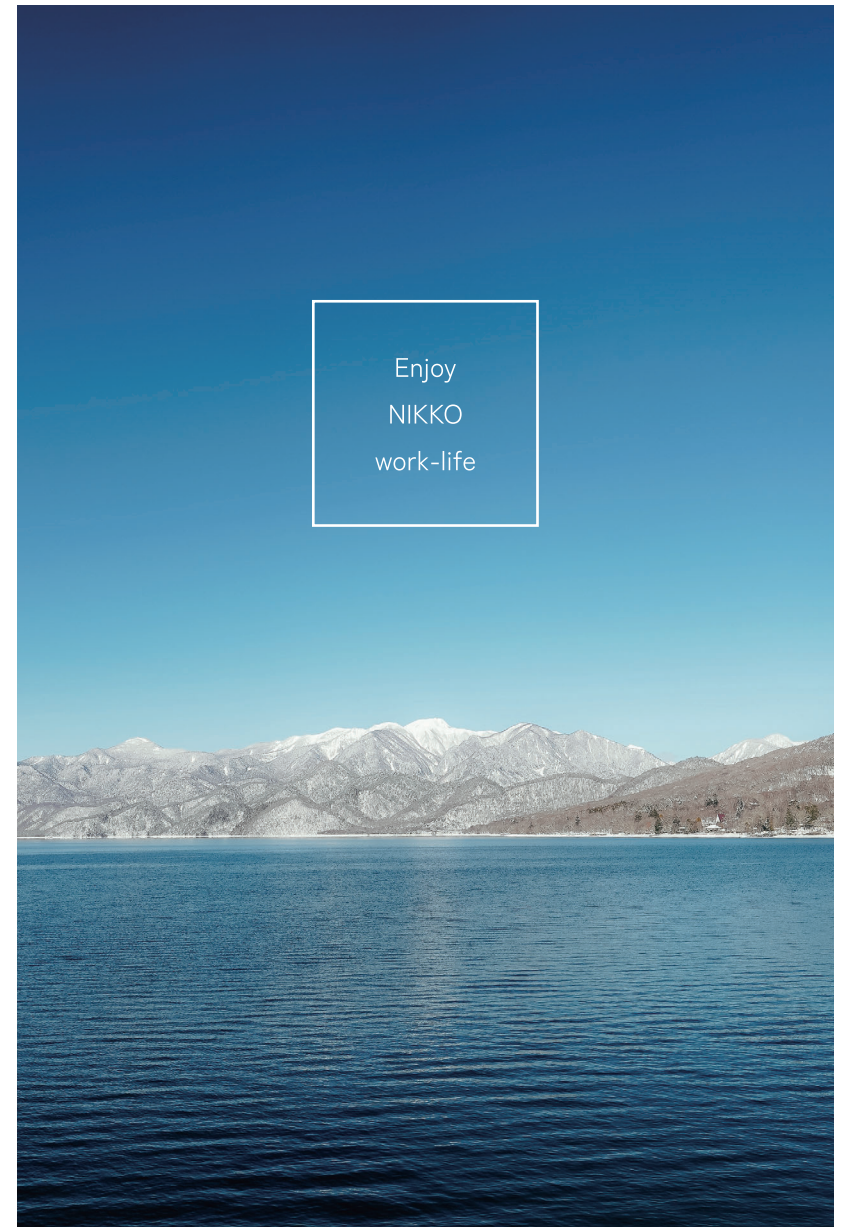
うず・うず Days 日光

うず・うずカイギ第8回目は、メンバーのやりたいことの発表を広く行う場として「うず・うず Days 日光」を開催しました。メンバーにより進行中の「日光の新しいお土産開発プロジェクト」、「日光版フォルケホイスコレー開校プロジェクト」、「SAKE GARDEN プロジェクト」。これらのプロジェクトを中間発表としてオープンな形で楽しめるイベントとなりました。今後の展開が楽しみです。



SUNNING NIKKO WORKER's GUIDE

発行日 2024 年 10 月 31 日
発行者 スマートワークライフ #Nikko
企画・編集・デザイン 高橋広野 (NEIGHVERSE)
問合せ先 スマートワークライフ # Nikko
〒 321-1292 栃木県日光市今市本町 1 番地
日光市企画総務部総合政策課内
Mail / smartwl.nikko@gmail.com





スマートワークライフ
#Nikko



smartwl-nikko.jp



@smartwl.nikko